

部局名： 岡山大学病院

組織目標	達成度:
<p>1. 特定機能病院としての機能をさらに進化させるため、先進医療の研究・開発を図り、その論文数の増及び申請を促進する。</p> <p>2. 医療教育機関として、新たな研修制度に対応する卒後研修プログラムの開発を行うとともに、定員数の拡充及び充足率の向上を図る。</p>	<p>1. 特定機能病院として高度な医療を提供するため、先進医療の開発・提供の推進を図った。先進医療の申請・承認状況は、平成21年度には、新規申請を3件行い、2件が承認された。21年度末時点で、先進医療承認件数は18件となる。 また、先進医療に関する論文発表数は、21年度については現段階では未調査ではあるが、平成19年度137件、平成20年度280件と増加傾向にある。 そのほか、先進医療として、ナノバイオ標的シーズの臨床開発を本院のみならず、海外(英国、米国、台湾)においても推進している。</p> <p>2. 医療教育機関として医師・歯科医師の卒後臨床研修プログラムの充実を図るため、医師卒後研修については、プログラムの大幅な見直しを行い、「地域の中で医師を育てる」をコンセプトに協力型研修病院及び施設とコンソーシアムを組み、本院と市中病院・施設の研修を組み合わせたプログラムを策定した。歯科卒後研修については、地域歯科医療施設数の増加等により地域研修の充実を図った。 また、充足率の向上のため、医学部在籍中の学生に対する広報活動やホームページのリニューアルを行った結果、医師マッチング試験の応募者が昨年度38名を大幅に上回る88名の応募があり、マッチ率100%(昨年度37.5%)を達成した。</p>
<p>1. 平成20年度から本格的に実施している各診療科等における目標管理(目標値を設定)に関して、その効果を検証しつつ効果的な経営方法を構築する。更に診療コストの削減について、より効果的な方法を検討する。</p> <p>2. 地域医療連携を軸として患者サービスの向上を図る。また、退院支援システムの改善など患者中心の入退院システムを構築し、環境整備を図る。</p> <p>3. 患者に対するサービス業務の推進や病院運営の効率化・適正化を図る。また、新たな事業を企画することにより、収入の安定的確保に努める。</p> <p>4. より効果的・効率的医療の提供のための中央診療棟の整備計画を具体化する。また、大学病院の使命である高度で安全な医療提供に関して質的向上を図る。</p>	<p>達成度: 4 ③ 2 1</p> <p>1. 目標管理の実施方法を一部改善し、従来は診療科等の自己申告により目標を設定していたところ、今年度は経営目標数値を病院執行部で設定し、病院長ヒアリングの実施結果に基づき各診療科等の目標を定めることとした。目標値設定後、毎月、実績をチェックし、必要な診療科等に対し中間ヒアリングを実施し、改善要請を行った。この結果、念願であった単年度黒字化の達成も見えてきた。 また、診療コスト削減に関しては、医薬品については医薬品購入に関する検討会を中心に、医療材料に関しては医療材料選定会議において強力に値引き交渉を行い効果が出ている。 ・医薬品△150,818千円(年間削減見込額) ・医療材料△33,063千円・・・2月末現在実績</p> <p>2. 本学と岡山市との医療連携協定に基づいた地域医療の充実を具体化するため、具体的な事項等詳細な事業について検討を進めている。 また、地域医療機関との連携面においては、医療機関に対してアンケート調査を実施し、予約満足度は希望通り(55%)、希望日に近い日時(35%)とほぼ満足との回答であった。 そのほか、県内の主要な病院との連携を目的として「連携実務者の会」を立ち上げ情報交換等連携を密にしている。 患者サービス面では検査部における患者の流れを改善し、また生理系ネットワークシステムの導入により、検査待ち時間と結果報告時間に効果があった。なお、予約変更センター業務の改善により、従来できなかった検査予約も変更可能となり患者サービスの向上を図った。さらに、支援が必要な患者に対して情報の共有を図ることにより、早期介入に努め、退院後のサポート体制も整備した。</p> <p>3. 患者サービス及び効率化のため、会計表示板・入金機等の設置場所の改善により患者の流れがスムーズになり、混雑緩和に寄与した。 また掲示板の整備(院内6ヶ所設置)、電子ポスターシステムの充実等により掲示物の整理、患者サービスの向上を図った。 さらに看護部と事務部のサービス向上委員会において問題に対する実効性のある解決策を検討し、実行に努めている。 収入の安定的確保の面から、診療報酬請求実務の合理化・精度向上を目的にレセプトチェックシステムを導入した。さらに医事課職員の専門性を高め請求漏れの防止、適正なレセプト請求を図るため、業務委託から特別契約職員として雇用した。この結果、本年度約200万円の経費削減効果があった。</p> <p>4. 新中央診療棟へ移転を予定している部署に対して、施設有効活用のため跡地利用計画案を策定した。さらに、旧光学診療部跡地利用に関しては、原案を策定し、今後具体的に調整することとなった。 高度で安全な医療を提供するため、医療安全管理部の職員会議構成員を多職種にしたことにより、インシデント分析や改善策の立案に有効であった。 また、安全確保の観点から巡視や直接現場確認等を実施することにより、医師等の現場での意見を収集しやすくなり有効であり、今後もこの体制は継続する。さらに、リスクマネージャー会議を毎月定期的に開催し、事例研究等により安全な医療について啓発している。このことは、診療科長等会議・病院連絡協議会等各種会議において、情報共有・周知徹底を図り、医療安全に努めている。 なお、抗ガン剤使用に関しては対応ガイドラインの改訂を行い、より安全なガン化学療法を実施するため院内専用HP(診療マニュアル)に掲載した。 さらに、臓器移植法が改正されるに伴い、今後益々移植医療に係る諸問題への対応は避けられず、このため今年度「臓器移植問題検討委員会」を設置し、よりの確かな対応と透明性を図ることとした。</p> <p>達成度: 4 ③ 2 1</p>

社会貢献・診療

事項	前年	今年目標	達成状況
医療収入の増収	病院収入額(本院) 218.26億円	前年度以上の増収を図る	228.7億円(2月末時点見込み)
診療経費の抑制	医療費率(本院) 39.27%	前年度以下の医療費率に抑制する	40.04%(2月末時点見込み)
科研費申請率	83.0%	前年以上の申請件数の増加に努める ※評価は、医歯薬学総合研究科とあわせて実施願いたい	83.1%
科研費採択率	23.6%	前年以上の採択率の増加に努める ※評価は、医歯薬学総合研究科とあわせて実施願いたい	23.4%
共同研究件数	16年度2件 17年度10件 18年度10件 19年度15件 20年度10件 増加率△33.3%	過去5年間の平均研究件数10件以上 ※評価は、医歯薬学総合研究科とあわせて実施願いたい	21年度 11件
受託研究件数	16年度12件 17年度9件 18年度13件 19年度13件 20年度16件 増加率23.1%	過去5年間の平均研究件数13件以上 ※評価は、医歯薬学総合研究科とあわせて実施願いたい	21年度 19件

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

組織目標及び客観的指標の達成状況は、全体として良好であった。特に、単年度黒字化を強力に推進し、達成の見込みが立った。また、今年度は、突発的に発生した新型インフルエンザに対して、病院事業継続のための諸施策を実施し、大きな影響を受けることがなかった。22年度は、研究面の推進と社会貢献面(地域医療連携)の充実を図る。

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する